

## 平成29年度 授業改善推進プラン (調和小学校)

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 叙述に着眼目し、根拠を明確にして考え、説明させる。</li> <li>● 読み取りだけでなく、説明文では筆者の考えに自分の考えをもたせよう、物語文では登場人物の気持ちを自分と照らしあわせながら読み取ることができるようにする。また、それを伝え合い交流しながら読み取る機会を多く取り入れる。</li> <li>● 接続詞の意味に着目して読み取る力を伸ばすため、文章における接続詞の役割を確認する。</li> <li>● 問いに対して、語尾を適切に書けるよう、普段から主語に正対した語尾の使い方を指導していく。</li> <li>● 学習の基盤となる読書の習慣化に向けて、読書月間や図書室を有効的に活用する。また、学級でも学級文庫の充実や担任や保護者の読みかせ等、読書習慣が身に付くよう指導に取り組み。</li> <li>● 東京ベータドリルを活用し、継続的に既習内容の定着を図る。</li> </ul>	<p>1年・・・文章の中の大事な言葉に着目して、自分の考えを8割の児童が表現できるようにする。友達と考えを交流して伝え合う場面を取り入れていく。言葉、担任、保護者の読み聞かせを定期的に行い、読書に対する興味関心を高める。単元や学期の終わりに東京ベータドリルなどを活用し、既習内容の確認を継続して行う。</p> <p>2年・・・事柄の順序を考えながら8割以上の児童が、話したり、日記等に書いていく。大事なことを落とさず丁寧に話すことができるようにする。お互いの思いや考えを伝え合い、交流する機会を多く取り入れる。学期末の授業や宿題等で、東京ベータドリルを活用し、既習事項の定着率を高める。</p> <p>3年・・・文章の読み取りについては、全体を見渡せるような読解指導と、細部を読む指導を組み合わせ、友達の考えに多く触れられるような話し合い活動を行うことで、8割の児童が、叙述をもとに、明らかな根拠をもって自分の考えを述べられるようにする。また、東京ベータドリル、漢字ドリルを活用し、児童が漢字やローマ字の読み書きを8割以上できるようにする。</p> <p>4年・・・読む活動では、9割の児童が明確な根拠をもとに自分の考えをもてるようにする。読書習慣が身に付くよう、読書に關係する学習単元を読書月間に行う。学期末に東京ベータドリルを活用し、既習事項の定着率を高める。</p> <p>5年・・・正しく読み取るために接続詞に着目した読み取りができるようにする。授業において、自身の意見の表明の際には、叙述に基づいた根拠を明確にさせるとともに、問いに対する適切な語尾の使用を意識付けるようにしていく。最終的に9割の児童が読み取ったことや自分の考えをペア学習などで友達に伝えることができるようにする。可書と連携し、読書月間や図書室を活用し読書の習慣化を図る。東京ベータドリルなどを日常的に活用し、既習内容が定着するようにする。</p> <p>6年・・・どのような文章でも、叙述に基づいて内容や筆者の考えを読み取ることができるようになる。そのために、細かな表現の工夫を丁寧に読み取ったり、様々な技法に対する理解を深めたりする活動を行う。友達とペアや複数、全体で交流する機会を多く設けることで、最終的に9割の児童が叙述を根拠に、自分の考えを話したり書いたりできるようにする。東京ベータドリルを活用し、漢字や言語事項等の既習事項の定着率を高める。</p>	8割以上の児童が、読み取った内容を根拠に解釈したり説明したりできるようになった。的確な叙述を根拠に自分の考えを述べることができ、十分にできているとは言えないため、今後も意識して指導していく必要がある。接続詞の意味、問いに対する適切な語尾の使用はできるようになってきている。読み取りの力を付けるために必要な読書を習慣付けるため、読書月間や図書室を有効的に活用し、読書習慣が身に付くよう指導に取り組んだ。東京ベータドリルを計画的に活用し、既習事項の定着を高めていこうとした。
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 興味をもつて基礎的な知識を身に付けられるよう、内容に応じた手法を工夫し、継続的に指導する。(3年生 方角・地図記号 4年生 都道府県、東京都の区市町村名、とくに自分の住む市の位置など 5年生 県名・特産物・日本の産業 6年生 世界の国名・日本の歴史)</li> <li>● また、各単元で確実に身に付けた知識を明確にし、指導に生かす。その定着のため、ベータドリルを積極的に活用する。</li> <li>● 関心・意欲が高まる資料を提示し、因果関係やおおまかな傾向をつかむ活動や、複数の資料を比較したり関連付けたりする活動を行う。その過程で、話し合いや自分の考えを説明する場を多く設ける。</li> <li>● 社会科学用語での気付きについて事後学習の場で、グループ毎に話し合い、分類整理などを通して思考力を磨く。見学した事象を検討し、学習事項とつなげてとらえさせる。</li> <li>● 調べ学習に必要な資料を自分で探し、読み取り、まとめ、考察、発表する学習活動を行う。</li> </ul>	<p>3年・・・8割の児童が、調べ学習によって集めた情報を再構成して、その事象がどのようなことと関連するのかなを考へてまとめることができるようにする。東京ベータドリルなどを活用し、全ての児童が四方角と地図記号を9割以上身に付けられるようにする。</p> <p>4年・・・年度末まで、都道府県の名称、位置、東京都の主な区市町村名を、7割の児童が身に付けられるようにする。そのために、2学期後半から東京ベータドリル等を活用し、複数の資料を比較したり関連付けたりする活動を行うとともに、並行して話し合い活動を多く取り入れることで、資料から読み取れることを自分の言葉で言えるようにする。</p> <p>5年・・・日本の産業に関して、学習に必要な資料を教科書や資料集から自分で探す時間を授業中に確保したり、必要な資料に関して少人数で意見交換したりする活動を通して、8割の児童が情報を読み解く力を高め身に付けられるようにする。自分で調べたことを新聞やレポートにまとめる活動を通して、社会的な事象に対する自分の考えを表現する力を身に付けられるようにする。</p> <p>6年・・・教科書や資料集、その他の資料を関連付けて読み取ったり、そこから考えられることを話し合ったりする機会を多く設ける。様々な観点をもてるよう、ペアやグループでの話し合い、全体での検討を毎時間行うようにする。これにより、8割の児童が資料から因果関係などを読み取るようにする。授業の始めの5分間は、可能な限り知識定着のためのフラッシュカードによる学習を行うようにする。必要に応じてベータドリルを活用することで、各単元の学習内容の定着を図る。これにより、各単元で身に付けさせたい知識を、8割の児童が習得できるようにする。</p>	学年、学習内容に応じた取り組みにより、思考力のベースになる基礎的な知識は多くの児童(概ね8割前後)が身に付けることができた。また、各学年で、話し合い活動の中で、友達との観点を入れながら学習内容をまとめたり、資料に関する自分の考えを発表したりする時間を確保することで、資料を読み取る力が向上した。
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童が興味・関心をもって問題解決学習に取り組めるような問題提示を工夫する。また、生活に即した学習課題を多く取り入れる。</li> <li>● 問題を読んでも場面をイメージし、課題を明らかにしたり、既習事項に関連付けたりする。</li> <li>● 言葉・数直線・図などを使って、筋道を立てて解き方を考え、ペア学習や集団討議を行い説明させる。</li> <li>● 数量や図形について豊かな感覚が育つよう、算数的活動を充実させる。</li> <li>● 東京ベータドリルを活用し、計算・作図などの練習を継続して行い、知識技能の定着を図る。</li> <li>● 授業の終わりにねらいに対応した振り返りを行う。</li> </ul>	<p>1年・・・問題把握の場面では、イメージしやすいように視覚的教材を提示する。演算決定のもとになる言葉や数に印を付ける。具体物を用いて数を数えたり、長さを測ったり、計算したりすることを重視する。ペア学習を取り入れ、9割以上の児童が、言葉、図などを使って自分の考えを表現できるようにする。単元や学期の終わりに東京ベータドリルなどを活用し、既習内容の確認を継続して行う。</p> <p>2年・・・全ての児童が筆算による加減九九の習得できるようにする。ペア学習を取り入れ、数直線や図、言葉を使って簡単な説明ができるようにする。問題把握の場面では、分かったこと、聞かれていること、単位に印を付ける。学期末の授業や宿題等で、東京ベータドリルを活用し、既習事項の定着率を高める。</p> <p>3年・・・既習事項を活用しながら問題を解決していく活動を通して考えの力を高める。自分の考えを言葉・図・絵に表して、児童同士で交流したり、発表する機会を多く取り取りして表現する力も高めていく。学習したことの定着を図るために東京ベータドリルを活用し蓄積していく。</p> <p>4年・・・ペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の考えを図や式などに表して説明する学びの活動を充実させる。7割の児童が自力解決できるようにする。東京ベータドリルやステップアップワークを活用し、計算・作図の練習を継続して行う。東京ベータドリルの診断シートの満点割合を10%以上に上げる。</p> <p>5年・・・ペア学習やグループ学習など知能的活動を毎回の授業の序に取り入れることで、言葉や図などを使って解き方を考えたり、それを説明したりする力を付けていく。計算・作図などの知識技能の定着も伸ばす。東京ベータドリルやステップアップワーク、計算ドリルなどを活用していく。既習事項の診断シートの満点割合を10%以上に上げる。</p> <p>6年・・・自分の考えを図や式に表して、自身が説明する活動に加え、ペア学習などの学習活動を重ねることにより、9割程度の児童が自力解決でき、7割程度の児童が、多様な方法で自力解決することができるようにする。東京ベータドリルを活用し、基礎基本の定着を図っていく。東京ベータドリルの診断シートの満点割合を10%以上に上げる。卒業までに診断シートの正答率を80%以上に上げる。</p>	ペア学習やグループ活動での活動を多く取り入れたことで、8割の児童が自分の考えを図・式・言葉・線分図など様々な方法で表現し、説明することができるようになった。既習事項を生かし、問題を自力解決しようとするこもよく身に付けてきた。数学的な考え方の定着には課題が残っているため、東京ベータドリルを活用し継続的に指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主体的に課題に取り組めるよう児童が自ら問題を見出し、自己啓発の工夫をする。</li> <li>● 実感を伴った理解ができるように日常生活や既習事項と結びつけて予想したり、実験方法を考えたりできるように資料や掲示物を工夫する。</li> <li>● 実験や観察をできるだけ少人数で行い、一人一人の技能の向上を目指す。</li> <li>● 実験結果や資料などを読み取り、規則性を見出すような活動を取り入れる。</li> <li>● 考察を書く際、実験グループで話し合いをし、自分の考えを説明したり、互いの意見を交流したりする場を設ける。</li> <li>● ベータドリルを積極的に活用して知識・理解の定着を図る。</li> </ul>	<p>3年・・・導入においては、生活と結び付けたり、意外性のある事象提示をしたりすることで、8割の児童が自然に親しみ、自ら自然に働きかけ、日常生活や既習事項と結びつけながら予想でき、自ら見出した問題を追究できるようにする。実験方法や観察の視点についての理解を深めるために、十分な検討時間を確保し、話し合いなどを多く行うようにする。また8割の児童が実験結果、考察を自分で書けるよう、書き方を指導するとともに、学び合う時間を確保する。フラッシュカードやベータドリルを活用し、知識の定着を図る。</p> <p>4年・・・季節の移り変わりを実感できるよう、サクラ・ヘチマの観察を継続して行い、気温と生き物の活動のかかわりを見出すようにする。実験器具の使い方や実験方法を丁寧に指導し、児童が安全に見通しをもって授業に取り組めるようにする。また8割の児童が実験結果、考察を自分で書けるよう、書き方を指導する。単元の終わりに、ベータドリルを活用し、知識の定着を図る。</p> <p>5年・・・条件を制御しながら実験に取り組めるように、実験計画を話し合わせ、主体的に取り組ませる。実験結果から考えられることやさらに検証したいこと等を8割の児童が考察に書けるよう指導する。仮説が立てられるように、最初に行うだけ共通体験をする。単元の最後にまとめた新聞を作ったり、ベータドリルを積極的に活用したりして知識・理解の定着を図る。実験器具の取り扱いについても繰り返し指導し定着を図る。</p> <p>6年・・・多面的な見方、考え方ができるよう一つの事象から他の事象に対しても類推できるような場を設定する。実験で分かったことだけでなく、他にもこのような事象が起きているのではないか、違う条件にしたらどうなるかな等を、考察に8割の児童が書けるようにする。単元の最後に物づくりやまとめ新聞作りを取り入れて知識の定着と応用を図る。ベータドリルを活用して知識・理解の定着を図る。</p>	日常生活や既習事項から、予想や仮説を立てられる児童が8割以上になった。実験器具の扱いにも慣れできていく。実験結果から、妥当な考えを話し合ったり、結論を導き出したりすることも慣れ、自分の言葉で考察を書けるようになったことは成果である。一方、知識の定着や、科学的な見方考え方は繰り返し指導する必要がある。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歌唱(合唱も含む)・器楽などの基礎的な表現の能力を伸ばし、互いの音を聴き合いながら、思いや意図をもって主体的に表現活動に取り組めるようにする。</li> <li>● 鑑賞活動では、楽曲の特徴や演奏のよさに気付かせるため、楽曲を聴いて想像したことや感じたことを言葉で表す活動を行う。</li> </ul>	<p>1年・・・楽しく歌ったり、演奏したり、曲に合わせて身体を動かしたりできるようにする。鑑賞活動では、楽曲を聞いて感じたことをプリントに書いて発表したり、友達の思いも知ることができるようになる。</p> <p>2年・・・鍵盤ハーモニカは少人数で指導を意識して友達と合わせて演奏できるようにする。拍を意識し流れに乗れるようにするため、リズム打ちなどを通して身に付けさせる。</p> <p>3年・・・リコーダーの基礎的な演奏を身に付けさせ、合奏へ発展できるようにする。音の重なりや変化を感じ取って表現したり、鑑賞したりできるようにする。</p> <p>4年・・・音色・強弱・速さ・曲想などを、互いに聴き取ったり表現したりしようとする態度を身に付けさせる。</p> <p>5年・・・技能を伸ばして楽器の演奏に対する苦手意識を減らし、合奏することの大切さを演奏活動を通して身に付けさせる。</p> <p>6年・・・合唱や合奏を通して、曲想を考えながら表現しようという気持ちと自発的に表現できる技能を育てる。</p>	低学年は基礎的な音楽的技術の習得、中学年は身に付いた基礎的な音楽技能の発展、高学年は考えながら音楽を表現することを目指す授業を実施した。全学年を通して、目標としていたことを概ね8割の児童ができるようになった。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表したいことを見付け、形や色、材料などを生かし、計画的に取り組める力を育てる。</li> <li>● 表したいことに合わせて、材料や用具を活用できるように育てる。</li> <li>● 制作や鑑賞を通して、意見を交流し合い自分の作品のよさや美しさなどを自分の言葉で表現できるようにする。</li> </ul>	<p>1年・・・表したいことを見つけ、材料や用具を活用できるように、基礎的な道具の使い方を学び、形や色、材料の特徴を感じられる表現を体験できるようにする。鑑賞カードを活用し、作品のよさを見つけて伝えたりする。</p> <p>2年・・・作業前に作品のイメージを膨らませる時間を確保することで、見通しをもった作品制作できるようにする。鑑賞カードを活用し、作品のよさを見つけて伝えたりする。</p> <p>3年・・・いろいろな材料や表現方法に出会う機会を増やし、友達と協力することで表したいことを見付けられるようにする。道具を大切にし、正しい使い方ができるようにする。</p> <p>4年・・・つくることや見ることを楽しみ、意見を交流させ、集団の中でも自分の気持ちを表現し、お互いの表現を認め合える力を育てる。道具を大切にし、使い方を工夫することができるようにする。</p> <p>5年・・・既習事項を活かし、自分のイメージに合った材料や方法を選ぶようにする。手順を考へて制作に取り組めるようにする。道具を大切にし、使い方を深め、自分の表したいことに合わせて使い方を工夫することができるようにする。鑑賞活動や、めあてを共有する活動の中で、自分の表現を上げられるようにする。</p> <p>6年・・・既習事項を活かし、自分の思いを表現するために必要な手順や方法を考え、見通しをもって取り組めるようにする。道具を大切にし、基礎基本を大切にしながら、自分の表したいことに合わせて使い方を工夫することができるようにする。鑑賞活動や、めあてを共有する活動の中で、自分の表現を上げられるようにする。</p>	低学年から系統立てて道具の使い方を指導し、安全に基礎基本を身に付けることができていた。鑑賞カードを用いて、互いの良さに気付く、作品の発表を広げる手だてにつなげることで、表現と鑑賞を結びつける指導をすることができた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 動きの図や模範の動きを見て、技能ポイントを理解し、運動に活かせるようにする。</li> <li>● 個に応じた運動ができるような学習の場を設定する。</li> <li>● 学習カード(ノート)を使い、動きの確認、ふり返りができるようにする。</li> <li>● 教え合い、学び合いができるようにペアの活動やグループの活動を取り入れる。</li> <li>● 学習のめあてを設定し、児童がめあてに沿って学習できるようにする。</li> <li>● 学習の流れの中で、ふり返りを行い、よりよい動きを身に付けさせる。</li> <li>● 運動につながるような準備運動、感覚つくり運動を取り入れる。</li> </ul>	<p>1年・・・学習カードを用いて個に応じためあてをもって楽しく活動できるようにする。児童が互いに話し合う中で、遊びを工夫していけるようにしていく。</p> <p>2年・・・学習カードを用いてことで、めあてを意識させて取り組ませたり、次につながるよう振り返りをしたりできるようにする。楽しく活動の中で、いろいろな運動に親しみることができるようになる。</p> <p>3年・・・学習カードを使用し、授業のめあてに沿った振り返りができるようにする。実施に応じた学習の場を設定を大切にしていく。ICTを活用し、模範となる動きのポイントを児童に示していく。児童が互いに教え合いや学び合いができるようペアやグループでの活動も大事にしていく。</p> <p>4年・・・学習カードで技能ポイントを明らかにし、毎時間のめあてをもって運動に取り組めるようにする。友達よりよい動きを見つけて、互いに教え合い、学び合いながらめあてに即した技能を習得できるようにする。運動が苦手な児童に対しては、個に応じた場を設け、児童の実態に応じた指導ができるようにし、楽しみながら運動に親しめるようにする。</p> <p>5年・・・技能のポイントを的確に指導したり、提示したりする。学習カードを用いて、チームや個人でのめあてを立てさせ、振り返りができるようにする。友達との教え合いや学び合いを充実させるために、グループ活動を取り入れ、技能の習得を目指す。</p> <p>6年・・・学習カードや掲示資料などで技能ポイントを明確にし、児童同士の教え合い、学び合いができるようにする。単元全体の計画、本時の流れを予め提示し、不安なく見通しをもって授業に取り組めるようにする。学習のめあてを前時までの振り返りなどを基に設定し、めあてにそって振り返りができるようにする。コアディンション運動を取り入れる。</p>	具体的な一単位時間のめあての設定、学習カードを用いたふり返りを行うことで8割以上の児童が自己やチームの課題解決に向けて主体的に運動に取り組めるようになった。また、技能ポイントを分かりやすく提示することや友達と動きを見合う、真似し合うことで児童の技能の高まりも見られた。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎的な知識や技能を身に付けることができるように、自分の生活と結びつけて考えられるようにする。</li> <li>● 学んだことを積極的に実生活で生かすことができるよう教材を用意する。</li> <li>● 友達と考えの交流を通して、自分の考えを深め、よりよい生活のために創意・工夫することができる場面を設定する。</li> </ul>	<p>5年・・・身近な生活の中から課題を見付け、学んだことを実生活に活かしていく学習の流れを大切にいく。家庭科の学習と日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習となるように工夫する。友達と体験したことや考えを交流し、生活課題を意識したり実生活に応用したりできるようにする。</p> <p>6年・・・学んだことを積極的に実生活や行事に活かすことができる学習の流れを大切にする。児童が自分なりに考えたことを友達と交流することで自分の考えを深め、よりよい生活のために創意工夫できる場面の設定や教材を用意する。</p>	実生活につながるような課題を設定し、学校生活と関連付けて実践することで、学んだことを活かそうとする児童が多くなった。今後は基礎的な知識や技能の定着を図っていくためにも、家庭でのお手伝いや自分でできることは自分でやっていくこと意識付けを継続して行っていこうと必要である。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身近な事象や現象を用いて、児童に具体的な活動や体験をさせる。</li> <li>● 児童が自分のよさや可能性に気付く、自信をもって生活できるように、成長について友達と交流したり対話したりして、実感できるような活動を設定する。</li> <li>● 分かったことや考えたことを友達や大人に発表する機会を多く設け、経験を生かして伝え合う力を育成する。</li> </ul>	<p>1年・・・具体的な活動や体験を多く取り入れ、自分なりの気付きや疑問をもてるようにする。子供たちが気付いたことや興味をもったことをもとに授業をつくり、分かったことや考えたことを友達に発表する機会を多く設けることで、伝え合う力を習得できるようにする。</p> <p>2年・・・具体的な活動や体験を多く取り入れ、分かったことや考えたこと、気付いたことなどを自分なりに表現できるように積み重ねていく。発表の場を多く設けることで、伝え合う力を習得する。</p>	多様な体験活動を通し、自分なりに表現し伝え合う力が高まった。今後も、実感を伴った学習の中でできる力がついていこうと、単元計画を工夫していく。